

育児支援基金利用内容

保育先確保が困難となっている学生等を対象に
学生対象一時保育等利用料補助を実施。



●利用対象者

- ・ 育児中、かつ配偶者が就労・就学により、本サービスを利用しないと学修・研究が困難な状況にある本学在籍の学部、大学院（修士課程・博士後期課程・専門職学位課程）の正規学生
 ※科目等履修生、または休学中で、復学前3か月以内の学生も含む。

●対象となるサービス

- ・ 対象となる子どもの一時保育
- ・ 通常保育場所の利用時間外(夜間・休日、病児・病後児保育)でのベビーシッターによる家庭内保育等

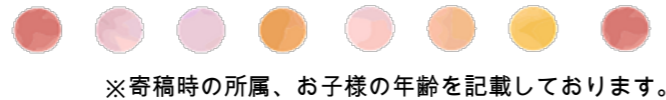
●支援金額と利用限度

- ・ 1日の利用につき、2,200円を補助。
- ・ 子ども1人あたり、年度につき原則44,000円を上限。

●利用者の成果事例

- ◆日本学術振興会特別研究員（PD）採用
 - ◆本学・他大学非常勤講師に採用
 - ◆スミセイ（住友生命）女性研究者奨励賞受賞
 - ◆学会誌への論文掲載
 - ◆公募による研究支援基金からの研究助成の受賞
 - ◆学会報告
- 等

利用者からの感謝の声



妊娠・出産期を乗り越え、研究者として
 キャリアの一步を踏み出すことができました

言語社会研究科 博士課程
 大学院生
 お子様(0歳、7歳)

このたび、博士課程を修了し、博士号を取得することができました。また、修了後も、一橋大学での非常勤講師の機会や、指導教授の元で引き続き非常勤研究員として研究を続ける機会をいただきました。これらは大学の親身なサポートと一時保育等利用料補助が無ければなし得なかったことで、心より感謝申し上げます。

実は、博士課程の最後の1年間は、第二子の妊娠・出産と重なり、出産前後に博士論文を執筆することになりました。産前は、学会や研究会への参加のために、小学1年の長男の送迎等に手が回らない時にシッターさんを利用させていただきました。また産後は、ゼロ歳児を自宅で見守っていただく、病気で体調を崩した長男のお世話を頼んだこともありました。

このような一時保育サービスの利用で、何とか研究や論文執筆の時間を捻出することができた他、指導教授をたずねて博士論文の指導を受けることもできました。研究者として駆け出しではありますが、今後も日本語研究や教育実践に貢献できるよう、研鑽を積んで参りたいと思います。

複数の育児支援制度を組み合わせ
 て利用し、経済的にも精神的にも
 安心できました

法学研究科 修士課程
 大学院生
 お子様(2歳、6歳)

私は、上の子が幼稚園の年長、下の子が2歳のときに、修士課程に入学しました。専攻科目の演習が夕方遅くにあるため、上の子の幼稚園の預かりが終わってから、私か夫が自宅に帰るまで、ベビーシッターさんを頼むことになりました。そしてそのとき、本大学に育児支援制度があることを知り、この制度を使わせていただくことにしました。

何より助かったのは、大学と契約しているベビーシッター業者があること、そしてその利用料を補助していただけることでした。いざシッターさんを頼むとなっても、一体どこのシッター会社さんに頼んでいいかわからず、決めかねていましたが、一時保育等利用料補助を利用し、大学の法人契約業者を利用することで経済的にも精神的にも安心して研究を進めることができ本当に感謝しています。

これからも本制度を続けていただき、私の様に悩めるママ学生や研究者の助けとなってくれることを願っております。

研究・勉強に
 集中することができました！

経営管理研究科 修士課程
 大学院生
 お子様(2歳、5歳)

去年より企業派遣でMBAに通っております。会社勤務の時は、時短勤務でしたが、MBAでの学問は17:00ピッタリに終わるという事がなく、どうしようかと思っていたところ、本学の育児支援制度のを知りました。お陰様で、週2〜3回ベビーシッターさんや区ファミリーサポートさんに子供たちをお願いし、集中して勉強に取り組むことができました。

寄附者の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

来年度も、本制度を活用させて頂き、修士論文の研究・執筆活動に専念したいと思います。

修了後は自らが支援者となって
 本制度を支えていきます

国際・公共政策大学院 修士課程
 大学院生
 お子様(2歳、5歳)

育児支援基金によるご支援のおかげで、大学院修士課程の夜間に行われる必修のゼミや講義に夜間保育を利用しながら参加することができ、子育てと研究活動を両立しながら修士論文を執筆し、この春修了することができました。育児支援基金の存在が、子育てをしながら研究活動を継続する際の大きな励みとなり、子供たちが病気になる時も、病児保育を利用しながら研究を続けることができました。

ご支援をいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。この基金が継続されること願い、就職後は自らが支援者になりたいと思います。

臨時の託児代を抑えることができ、
 研究を深められました

社会学研究科 修士課程
 大学院生
 お子様(4歳)

夜間や週末にセミナーなどが入ると、子どもの預け先を探すこととなります。臨時の予定なので、預け先への支払いも臨時の出費となるところですが、本学の一時保育等利用料補助を利用させてもらい、負担を大きく減らすことができました。

研究にはさまざまな費用がかかるため、一時保育の費用を抑えられ大変助かっています。

Thank You!